

普及指導活動情勢報告（令和3年11月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

農福連携が定着してきました ～「就労支援部会」と農家の連携によるサツマイモ収穫～



農業でつながる農福連携の輪

10月18日～11月1日の期間、土佐町において農福連携によるサツマイモ収穫作業が実施され、嶺北地域の3ヶ所の就労継続支援B型事業所の利用者延べ53人が7日間収穫作業を行いました。この取組は平成30年にB型事業所で組織した「就労支援部会」とサツマイモ生産農家、普及所が連携し、「就労支援部会」で農作業を受託する方式でスタートしたものです。

作業の内容は、園主が機械で掘りあげたイモのツルや根を除き、大きさを揃えてコンテナに詰めたり、トラックへの積み込みなどでした。何年も参加している方が多く、各事業所指導員から参加者の特性に応じて声かけされ、スムーズに作業が進みました。

普及所は、中山間地域特有の課題となっている移動手段や年間作業の確保などの解決を関係機関と連携して図りながら、農福連携の推進と定着を進めます。

さらによい農場に ～高知県 GAP 第三者確認制度現地調査～



登録更新に向けて調査中！

11月9日に高知県 GAP 第三者認証制度の登録更新のための現地調査が農家ほ場や出荷場などで行われました。JA 高知県れいほく園芸部は令和元年度に団体として登録をうけています。今年度はミニトマト部会と土佐甘とう部会が新たに加わり、86戸となりました。

普及所は、団体事務局である JA を支援し日々の GAP 指導を続けるとともに調査に向け準備をしてきました。

今回の調査では全く是正指示がなく、調査員が感心する農家もあり、これまでの取組の成果が見られました。

今後も普及所は、GAP の取組の向上を目指し、JA と連携して活動を続けます。

大豊町の伝統的な料理を後世に伝える食農教育 ～おおとよ小学校で郷土料理伝承講習会を開催～



頑張って銀不老寿司を混ぜる
6年生

大豊地区農漁村女性グループ研究会は、11月9日におおとよ小学校の6年生16名、18日に同校の5年生13名を対象に、郷土料理伝承講習会を開催し、「銀不老寿司」「こんちん」等の調理実習と、銀ブロウ豆やえごま等の地域食材を紹介しました。

普及所は、講習会の計画策定や資料作成等を支援しました。講習会に参加した児童からは「えごまの葉を初めて見た。しそみたいな匂いがする」、「家でも作ってもらいたい」といった声が聴かれ、大豊町の郷土料理や地域食材への関心が高まりました。

12月には小学3年生を対象に地域食材の講習会も計画しています。普及所では、今後も大豊地区農漁村女性グループ研究会の、地域農業への理解と関心を高める食農活動を支援していきます。

フラワーアレンジメントに挑戦！ ～小学校出前授業～



フラワーアレンジメントに奮闘する児童ら

JA 高知県とされいほく花卉部会は、11月5日に本山町の吉野小学校の3、4年生8名、11日に本山小学校の4年生18名を対象に出前授業を開催しました。

普及所は、開催に向けた調整や当日の授業の進行補助を行いました。

出前授業では部会員8名が児童に、花の名前や嶺北地域の花き生産の特徴をクイズを交えて紹介しました。また、実際に嶺北産の花を使ったフラワーアレンジメントのワークショップを行い、参加した児童からは「早く家に飾りたい、お母さんにもっと花を買ってもらいたい」と花に興味を持った様子を感じられました。

今後も普及所は、地域の担い手育成と花の消費拡大に向けて花育を支援します。

嶺北産ユズを世界へ！ ～輸出用ユズ玉の出荷作業～



輸出用ユズ玉の消毒作業を確認中

11月17日にJA 高知県や町、普及等の嶺北地区ユズの関係者12名が参加し、大豊町のJA集出荷場で、輸出用ユズ玉の出荷作業を行いました。青果ユズ輸出の取組は嶺北産ユズPRを目的に平成26年から実施しており、今年は約300kgをEU(オランダ)他2国へ輸出する計画です。

普及所は、輸出検査に必要な書類作成を支援するとともに、殺菌や選別作業が適切に行われるよう指導しました。生産者や関係者からは「EU向けに苦勞して栽培管理を行い、腐敗事故が無いよう念入りに調整したユズ。無事に到着してほしい」との声がありました。

今後も普及所は産地のイメージアップを図るために、輸出に向けた活動を支援して行きます。